



総合市民センター

☎(24)9511 ☎(23)7444

Ⓞ祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう！

「古典文学から見える昔の生活」

＋ちょっとウラ話

5月11日Ⓞ・6月15日Ⓞ10時～11時

30分／内容＝昔の1日の生活や住まい

／講師＝伊藤雅敏先生／対象＝市内在

住者／定員＝25人（申込順）／申込＝

4月19日Ⓞ9時～電話にて（土日も17

時まで申込可）

ガビン先生と楽しく学ぼう

古典文学講座

「古典文学から見える昔の生活」

昔の生活

＋ちょっとウラ話

ハッピー

令和四年五月十一日（水）

枚原市総合市民センターにて

十時から十一時三十分まで

伊藤雅敏

雅敏

去ハたゞの事ニハトシテハクニ

去リナクモイフコトヲハナシ

ナクモハクニハナシ

事ナクニハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

事ナクモイフコトヲハナシ

井つららあきとくはるるにりまあかしくむくひん
ふかしくしるるにきくしるるにきくしるるにきくしるるに
きくしるるにきくしるるにきくしるるにきくしるるに
きくしるるにきくしるるにきくしるるにきくしるるに

枕草紙

任能因平

春、あまた花をばりて、やうやくの御前へて

花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

あまた花をばりて、やうやくの御前へて

堀本 春はあけぼのの空 いたくかすみたるに
前田本 春はあけぼの 空はいたくかすみたるに
三巻本 春はあけぼの
伝能國本 春はあけぼの

堀本 めうやうしろくなりゆく
前田本 やうやうしろくなりゆく
三巻本 やうやうしろくなりゆく
伝能國本 やうやうしろくなりゆく

堀本 山のはのすこいづつあかみて
前田本 山ぎほのすこいづつあかみて
三巻本 山ぎほ すこい あかりて
伝能國本 山ぎほ すこい あかりて

堀本 むらさきだちたる雲の
前田本 むらさきだちたる雲の
伝能國本 むらさきだちたる雲の
伝能國本 むらさきだちたる雲の

堀本 ほそくたなびきたるもいとあか
前田本 ほそくたなびきたる
伝能國本 ほそくたなびきたる
伝能國本 ほそくたなびきたる

堀本 月のころはさらなり
 前巻本 月のころはさらなり
 三巻本 月のころはさらなり
 伝能楽本 月のころはさらなり

堀本 やみもなほほたる おほくとびちがひたる
 前巻本 やみも ほたるのほそくとびちがひたる
 三巻本 やみもなほほたるのおほくとびちがひたる
 伝能楽本 やみもなほほたる とびちがひたる

堀本 ただひとつふたつなど
 前巻本 またただひとつふたつなど
 三巻本 またただひとつふたつなど
 伝能楽本

堀本 ほのかにうちひかりてゆくもいとよか
 前巻本 ほのかにうちひかりてゆくも おか
 三巻本 ほのかにうちひかりてゆくも をか
 伝能楽本

堀本 あめ ののどやかにふりたるさへこそおかしけれ
 前巻本 あめなどの ふ るさへ をか
 三巻本 あめなど 降る も をか
 伝能楽本 あめなどの ふ るさへ おか

堀本 秋はゆふぐれ ゆふ日のきはやかにきして

前田景本 秋はゆふぐれ ゆふ日のきはやかにきして

三巻本 秋はゆふ暮 ゆふ日の さして

伝能因本 秋は夕暮 夕日 はなやかにきして

堀本 山のは ちかくなりたるにからすのね に行とて

前田景本 山のはいとちかくなりたるにからすのね にはゆくまで

三巻本 山のはいとちかくなりたるにからすのねどころへ行とて

伝能因本 山ぎはいとちかくなりたるにからすのねどころへ行とて

堀本 三つ四つ三つ三つなどびくく もあはれなり まーて

前田景本 三つ四つ三つ三つなど飛びくくさへ あはれなり まーて

伝能因本 三つ四つ三つ三つなどびくくさへ あはれなり まーて

伝能因本 三つ四つ三つ などびくくさへ あはれなり まーて

堀本 かりのおほくとびつれたる いとちいさくみゆるは いとおかー

前田景本 かりなどの つらねたるが いとちいさく見ゆる をかー

伝 雁などの つらねたるが いとちいさくみゆるは いとをかー

伝能因本 雁などの つらねたるが いとちいさくみゆる いとおかー

堀本 日いりはて後風のをとむしのこゑなほよこぶくまにもあらずめでたー

前田景本 日いりこゑなほ 風のそとむしのおなほはたなびくまにあらず

三巻本 日いりこゑなほ 風の音むしのおなほはたなびくまにあらず

伝能因本 日いりこゑなほ 風の音むしのおなほ

夏

春

真暗 雲

は

かすみたる

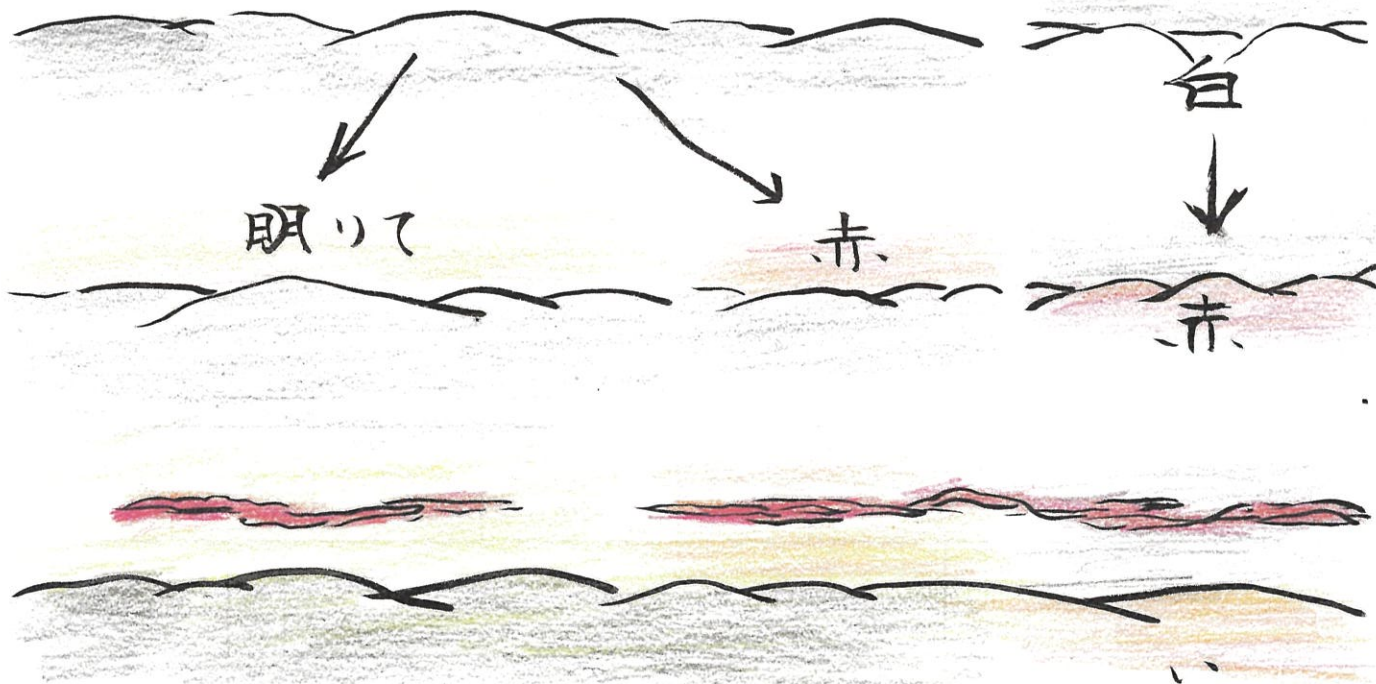
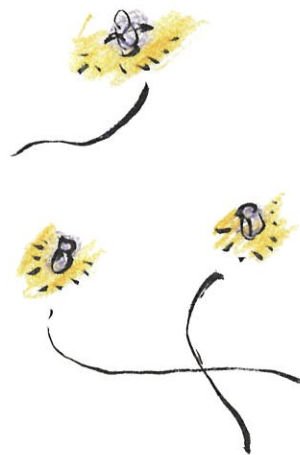
白

白

明りて

赤

赤



かすみ

早朝

冬

秋

寒

片

山際

山の端

さむき

昼



膚

響



音

聲



夜中 ↑ 宵 ↑ 日暮れ

明時

← 歌々文 曉

上代(あかとき)

↓ 中古(あかつき)

夜半から夜の明けきるまでの時間の推移

万葉集 2213 五更

105 鶏鳴

続日本紀 あかつき

ヤマト 味爽

通い婚ミ男がセと別れて帰る刻限

後朝の別れ

東雲 ← 歌

あかつきの別れ

きぬぎぬの別れ 夜衣

(しのめ)篠の目 住居に細細目 材料は篠竹

東の空が明るくなる頃 明ける一歩手前

夜明け前の薄明かり (茜色に染まる空)

(あさあけ)

朝明 あかつきよりも 朝に近しい

(あさけ)

文章 ← 明文 ← 曙

日の出前、物が見分けられる頃

(あけぼの) 空が薄明るくなる頃 夜明け頃

一夜

(あさぼらけ)

ほのぼのと明ける頃

視覚的な明るさ

あけぼのより明るくなった頃

同めく

和文

同に

つとめて

夜明けのらまもな頃

漢文訓

早朝

同ニ つつしんで仕事に始まる

お庭の仕事を 開始

あさあけな 夜が明けてからまもなく一ぼらけの間

昼頃まで